東温市の財政状況

平成26年度の東温市の一般会計決算は、収入が155億6662万円（前年度比5億4585万円、3.6%増）、支出が148億1700万円（前年度比6億7230万円、4.8%増）となりました。増加の要因は、南吉井地区児童館建設事業、道路改良事業、防災行政無線周波数統合事業の実施などによるものです。

一般会計に特別会計と企業会計を合わせた支出の総額は256億5364万円で、前年度と比較すると5億7562万円、2.3%の増加となりました。その主な要因は、介護保険給付費の増加などによるものです。

住民基本台帳
（H27.3.31現在）
人口　34,037人
世帯数　14,522世帯

26年度の収入と支出

福祉や環境、ごみ処理、道路や公園整備、教育など市が行う行政サービスの殆んどの事業の経理を行う会計を一般会計といいます。

このほかに国民健康保険や介護保険、下水道など特定の収入があり一般会計と区分して経理を行う特別会計（7会計）と独立採算制を原則とする事業の経理を行う企業会計（水道事業）があります。

一般会計の収入では全国のどの市町村に住んでも一定水準の行政サービスが受けられるよう、国から交付される地方交付税が約43億7千万円で全収入の28%、次いで市民税のみなさんが納められた市税の収入が約38億4千万円で、全収入の25%を占めています。収入全体では、約155億7千万円、市民1人当たり換算で45万7340円となっています。市税を市民1人当たりに換算すると、個人市民税が4万3110円、市税全体としては11万2660円となっています。

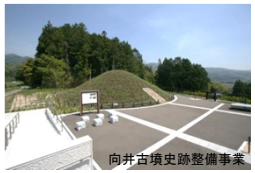
一方、支出では、お年寄りや障害のある人に対する福祉や子育て支援などの民生費が一番多く約48億6千万円で全支出の33%、市民1人当たりに換算すると14万1370円、次に市有財産の管理、戸籍管理、税金の徴収の費用などの総務費が約19億2千万円で全支出の13%、1人当たり5万6460円、次いで道路や公園などの整備費、医療費やこどもの教育費、医療費やローンの返済など毎月約28万5千円が必要です。

これに対して収入は、給料の約8万6千円だけでは生計を立てることができない状況です。

このため親からの仕送り約15万1千円と預金の取崩しや借金によって、やり繰りしている状況です。

維持管理の費用である土木費が約15億5千万円で11%、1人当たり4万5480円で、以下、教育費、公債費、衛生費、消防費と続いています。

支出全体では、約148億円、1人当たり43万4870円となっています。

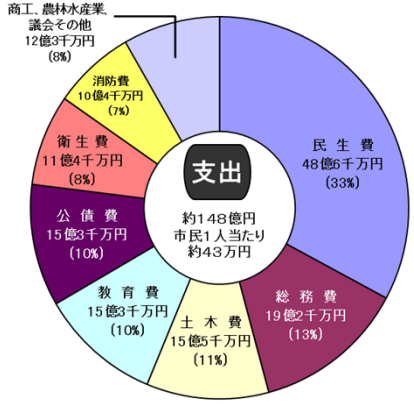

向井古墳史跡整備事業

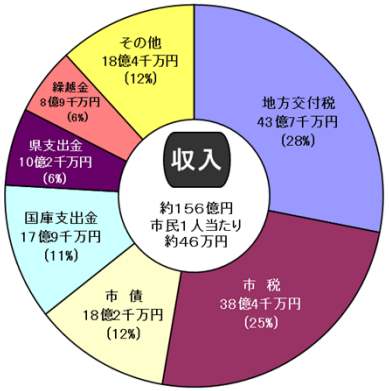
高規格救急車整備事業

東温市誕生10周年記念事業

市民（1人当たり）に使われたお金

民生費	142,770円	お年寄りや障害のある人に対する福祉の充実、子育て支援などの費用です。
総務費	56,460円	市有財産の維持管理、戸籍管理、税金の徴収などの費用です。
土木費	45,480円	道路や公園などの整備、維持管理の費用です。
教育費	45,060円	学校教育や生涯学習、文化・スポーツ振興などの費用です。
公債費	44,950円	市が借りているお金を返済する費用です。
衛生費	33,550円	ごみ処理や環境保全、病気の予防などの費用です。
消防費	30,520円	消防・救急業務や消防の施設・設備を整備する費用です。
その他	36,080円	議会の運営、農林水産業、商工業・観光の振興や災害対策などの費用です。
支出の合計	434,870円	





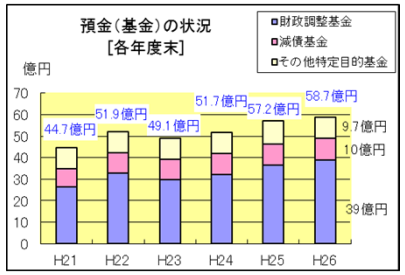
すべての会計の支出をあわせると

一般会計	148億　170万円
特別会計	90億1,676万円
企業会計（水道事業）	18億3,518万円
合　計	256億5,364万円

特別会計の内訳

国民健康保険	37億7,761万円
後期高齢者医療	3億6,430万円
介護保険	36億1,860万円
ふるさと交流館	1億4,690万円
簡易水道	105万円
農業集落排水	1億5,493万円
公共下水道	9億5,337万円

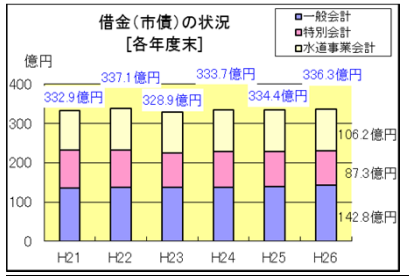
市の預金は？



市の26年度末の預金残高は約58億7千万円（市民1人当たり約17万2千円）です。前年度末と比較すると約1億5千万円増加しています。

このうち、財政調整基金が39億円で預金全体の約66%を占めています。これは、今後増加が見込まれる防災・減災対策や、施設の老朽化対策などの事業に備えるためのものです。

市の借金は？



市の26年度末の借入金残高は一般会計で約142億8千万円（市民1人当たり約42万円）、これに特別会計と水道事業会計を合わせると約336億3千万円（市民1人当たり約98万8千円）になります。

前年度末と比較すると一般会計では約4億5千万円、特別会計と水道事業会計を含めた全体では約1億9千万円増加しています。

月収30万円の家計に例えると

東温市の26年度の収入は約156億円ですが、金額が大きすぎて実感がわきません。

そこで月収30万円とした場合の”とうおん家”の家計に置き換えてみました。

※わかりやすさを優先して作成しています。正確な意味や内容と違う部分もありますが、ご理解願います。

”とうおん家”の家計簿

支出		比率
医療・教育費、保険料（扶助費、補助費等）	75,500円	27%
食費（人件費）	47,300円	17%
光熱水費、電話代（物件費）	40,200円	14%
ローンの返済（公債費）	29,500円	10%
自宅の増改築、修繕費（普通建設事業費・維持補修費）	52,600円	18%
子どもへの仕送り（繰出金）	26,300円	9%
預金（積立金）	13,900円	5%
合　計	285,300円	100%

収入		比率
給料（市税・使用料・諸収入など）	86,000円	29%
預金の取崩し（繰入金）	11,000円	3%
前月からの持ち越し（繰越金）	17,000円	6%
親からの仕送り（地方交付税・国県支出金など）	151,000円	50%
銀行からの借入れ（市債）	35,000円	12%
合　計	300,000円	100%
翌月へ持ち越し（繰越金）	14,700円	